

地域と学ぶ

山形大地域教育文化学部

⑤

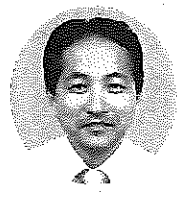
教育

2007年度から特別支援教育が本格的にスタートし、その対象に発達障害(学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)が加わり、支援と指導が始まりました。発達障害の子どもは、脳に中枢神経機能障害があるものの、知的に遅れていないことから通常学級に在籍しています。

特別支援教育・障害児指導法 三浦 光哉教授

▽1958年生まれ、宮城県出身。山形大着任は2001年。

市町村ごとに設けられている「専門家チーム」。山形大の担当者も加わって特別支援教育の在り方を協議している＝最上町



障害の理解、支援 後押し

特徴は、「読み・書き・計校、中学校、高校で行われ算ができない」「じっとしていません。現在では場面緘黙(かんもく)、不登校、科学研究所では、07年度から行動してしまふ」「片精神疾患、被虐待など、支ら筆者らが中心となり県内に付られない」「相手の気援が必要な子どもにまで拡各地に出向き、発達障害な持ちが理解できない」「場充されています。このようどへの具体的な指導や助違いな言動や行動が見られな支援を要する子どもは障言、本人参加による不登校「などさまざまです。害種や対応が複雑なため、改善会議、教員への特別支

特別支援教育は、県内全教育、医療、福祉などの「専門教育研修などを各教育委員会の保育所・幼稚園、小学門家チーム」を組織して対員会と取り組んでいます。その支えとして今後さらに地域連携を深めていきます。11月1日掲載します。

最近では、大学院生を派遣して個別検査の実施、教材教員の貸し出し、学習支援も始めました。これら活動により、山形県の特別支援教育システムは全国トップクラスと称され、教員や保護者にも浸透してきました。しかし、地域や学校・学園によっては支援体制に格差もあります。巡回相談を通して障害の早期発見と療育に努めています。その障害に気付かず、障害受容をできない保護者も少なくありません。障害を理解し適切な支援や指導を行っていくことが、本人の困難性を改善する一歩です。本研究は、